



自立と社会参加に向けた教育とは？

～学校と家庭の間をつなぐ生活と学びの場を～

所長 中村 雅子

長い人生をよりよく生きていくためには、自立と社会参加ということが重要です。障害のある子どもたちは、どのようにこれらの力を身に付けていくのでしょうか。今回は、このことを考えてみましょう。

子育てをしてきた皆さんにお話を伺うと、自立と社会参加の力をはぐくむためには、学校だけでも、家庭だけでも不十分だと感じていることが分かります。

幼いころから様々な年齢の様々な友達と触れ合えるような、社会により近い環境の中で、発達に適した療育を受けながら楽しく過ごした経験が、やがては就労や社会生活に役立ち、豊かな人生につながったと振り返っています。

10人ほどの少人数ながら年齢も障害種別も様々な仲間の中で、自分でできることは自分であることを学び、困っていることは助け合うことを学べる場、それがスマートキッズのような放課後等デイサービスです。認知スキル、自己コントロールスキル、対人スキルなどを高め、生活的自立や精神的自立、社会的自立などを含めた総合的な意味での自立性を高めているわけです。

具体的な様子を見てみましょう。学校が終わり、ほっとした表情の子どもたち。「おかえり！」と笑顔で迎える指導員。高学年の子に「おかえり！」と声をかける低学年の子どもたち。子どもたちは、学校から持ち帰った荷物や衣類を片づけ、まずは自分の力で宿題を行います。指導員が見守り、必要に応じて個に応じた支援をしながら、できるだけ自分でやってみよう促し、やりとげたことをほめ、できた喜びを味わえるようにしています。宿題プリントの解答に誤りがあったときは、そのままにせず、図をかいて説明し、再度チャレンジするよう促します。初めは、やりなおすのが嫌いだった子が、喜んでやり直すようになります。なぜなら、「間違えても大丈夫」「やり直すことはダメじゃない」ということが分かり、「やった！完成した」というすっきりした喜びの感情を味わえるからです。

学校の宿題だけでなく、個別支援計画をもとに個別の学習課題を用意しています。日常生活に必要な時計の読み方、文字や会話、読書やダンスなどです。皆一緒に行う活動では、共同制作やハンバーガーショップでの注文購入など、日常生活に必要な活動を取り入れ、生涯学習への意欲を高めるとともに、スポーツ、文化芸術活動に親しめるよう工夫しています。

活動の内容や学んだ様子を連絡帳に書き、家庭で生かし汎化していただけるようにしています。また連絡帳は、家庭での様子をお知らせいただくなど、家庭と放課後等デイサービスとの連携に欠かせない大切なツールとなっています。

個性豊かな子どもたちが、よさを生かしながら自立するための支援には、家庭と学校、そして、その間の実社会により近い放課後等デイサービスの役割が、ますます重要になっていると言えます。